

なぜ、お金が減るかもしれないのに投資する必要があるの？

日興アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹



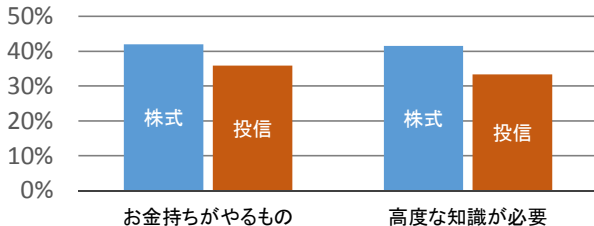
投資ってなんだ!?と聞かれば、引退後に『潤いのある暮らし』を送りたいから、と答えます。なぜなら、“普通に生きる”ことの中に、“投資”が組み込まれていることが正しいと思うからです。でも、今の平均的日本人の普通の生活には、投資をすること、いわゆる引退後に『潤いのある暮らし』を送ることが、脇の方に追いやられているようなのです。

■ 投資は「お金を持っている人」がやるものじゃないの？

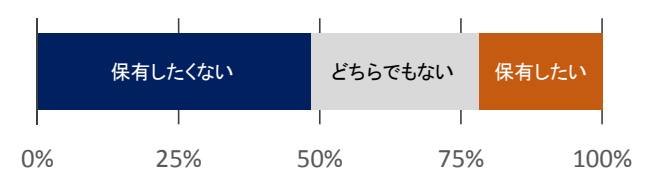
投資は「お金がないから」「お金持ちじゃないから」やらない、とよく耳にします。でも、お金持ちになってから投資するのではなく、お金持ちになるため、というよりも、ご自身が齢を取るなどの理由で働けなくなる引退後に『潤いのある暮らし』を目指すために投資する、ととらえた方が適切ではないでしょうか。

資金に余裕がない、知識がないから投資をやらないということは、もともとやらなくて良いという意味で「趣味」として選ぶ人だけが投資をするもの、と思われているのかもしれませんが。引退後の『潤いのある暮らし』は誰にでもあったほうが良いと思うのに・・・。

金融資産への印象



今後の有価証券保有意向



出所：金融庁HPの「国民のNISA利用状況等に関するアンケート調査（2016年2月）」をもとに日興アセットマネジメント作成
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■ 「お金が減るのはいや」「リスクを取りたくない」、でもリスクを取ったほうが良い理由

誰しも、減っては困る、リスクが取れない、といったお金を貯蓄されていると思います。例えば、食費や生命保険などへの加入、子どもの学費といった必ず必要なお金は、普通預金などに預けられているでしょう。言ってみれば、将来の生活費や医療費などは、すでに備えつつあるのだと思います。そして、この備えを越えたお金（少額からでもOK）に、“潤い”のために働いてもらうのです。

投資は、引退後の『潤いのある暮らし』、直感的には、歳を取ってから普段とは少し違ったことができる生活をするを目的に、30、40、50歳代から何をしておこうか、と考えていきます。そのための元手（お金）を投資で作っていきたいのです。この部分は（少し乱暴かもしれませんが）「減っても最悪の事態には至らない」ので、リスクを取っても良いのではないのでしょうか。

投資のリスクとは、世界経済や事業の成長リスク（良くなったり、悪くなったり）を負うことです。世界経済が成長していくと信じるならば、“潤い”部分のリターンを獲得を世界中のビジネスの成功に任せていけるのです。これが、「リスクを取ったほうが良い」と考える理由なのです。